

新原第一坑と第二坑について

海軍炭鉱・国鉄炭鉱の遺跡群 (12)

海軍炭鉱の始まりは新原で採掘した第一坑と第二坑です。第一坑は明治二十二年(一八八九)七月、第二坑は同十月の開坑とされているので、今年(二〇二〇年)目にあたります。この連載の第四三回(二〇〇〇年十月)で、湯下安工門の回顧を取りあげ、「今の一坑跡、博鉄線踏切の横の一本松の下を(海軍技術者が)試掘したという言葉を紹介しました。博鉄線は博多湾鉄道の略で、今のJR香椎線。その踏切は須恵高校と新原駅の間にある昭元町踏切です。第一坑も第二坑も昭元町踏切付近で、線路よりも東側にあつたことはわかっていましたが、坑口の正確な位置関係は不明でした。今回は新たに見出した明治二十六年当時の地図により、その点を確認しておきたいと思います。

もある)、おそらくぐるりと塀か柵かで周囲から区画されていたものと思われれます。図2は同じ位置を昭和十二年(一九三七)当時の地図から切り取ってみました。道路と線路が交差するあたりに、確かに「海軍一・二坑跡」と書かれています。明治二十六年当時より図の左側(北方向)に拡張されていることもわかります。写真1は現在の昭元町踏切付近で、線路の向こう側に広がる宅地が、かつての一・二坑の跡ですが、今は何の痕跡も残っていないようです。



写真1

図3は、図2と同じ昭和十二年の地図に描かれた、須恵駅付近から植木(甲植木)方面へと伸びる分岐線です。この分岐線についてはこれまで語られたことがなかったようなので、ついでに取りあげてみました。こちらは民営の炭鉱の石炭を積み出すための線路と思われませんが、やはり現地には何の痕跡も見いだせませんでした。

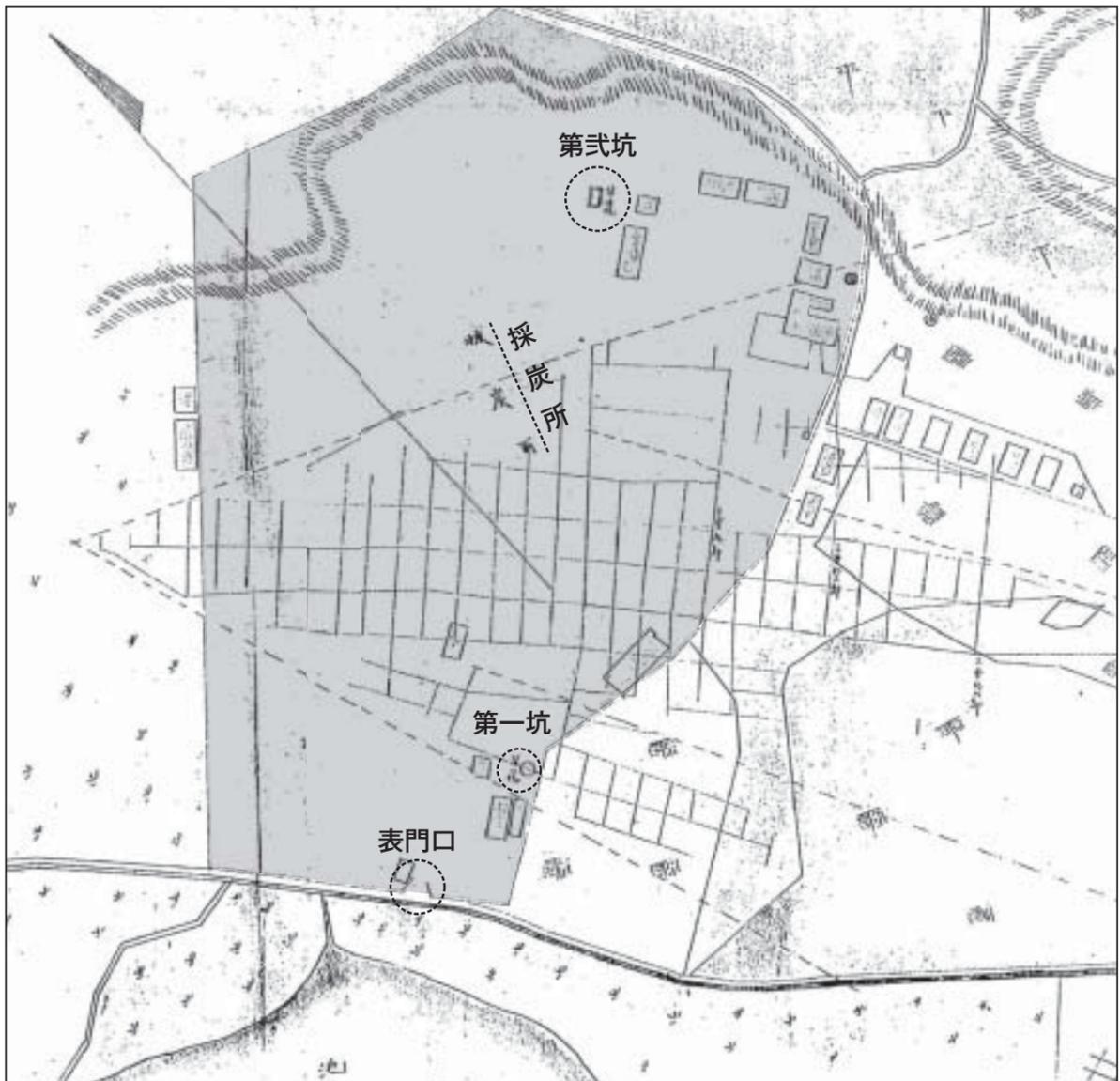


図1



図2



図3